

【都市と美術研究所】発表要旨

都市の記述

Scoring Cities

藤井由理

(早稲田大学理工学術院総合研究所 研究院客員教授
早稲田大学 総合研究機構 都市と美術研究所 招聘研究員)

FUJII Yuri

Guest Professor, Waseda Research Institute for Science and Engineering
Visiting Researcher at City and Art Institute of Waseda University

私たちは昔からさまざまな理由によって、都市を記述してきた。それは、一般的には地図と呼ばれる。例えば、原始時代には人間が生きてゆくために狩りや農耕をし、情報を共有する上で、地図は重要な役割を果たした。地図を描くことによって、人間はただの荒地を計画的な生産地に変えることができたのである。つまり、人間は地図によって、土地を把握し、共同体をつくり、政治を行うことが可能になったとも言える。農耕では河の位置や土地の高低差が、政治には国境が、移動には道路や方位、目印が描かれていることが重要であったろう。それぞれの目的にあった「地図」をつくるために、都市の記述方法（ノーテーション）を発明してきた。見る角度を変えれば、都市をどのように記述してきたかをみることで、私たちが都市とどのように向き合い、理解してきたかを知ることができる。さらには、記譜を創造的な手法と捉え、いままでにない都市の記述方法を創作し、気付きを生み出すことで、私たちの都市への新しい見方を誘発することも可能と言える。

本レクチャーでは、主に近代以降のさまざまな都市の記述をみてゆくことによって、都市と私たちの関係について考える。

略歴

1970年東京生まれ。1999年に早稲田大学大学院修士課程修了。スタジオナスカ、ドイツ・カナダなどでのStudio Daniel Libeskind勤務を経て2004年から藤井建築研究室一級建築士事務所代表。2014年から早稲田大学創造理工学部建築学科准教授、2021年から同大学教授。現在は早稲田大学理工学術院総合研究所客員教授。作品に、新宮島邸、服部邸、東京国立近代美術館メイキングプレイスプロジェクトなど。